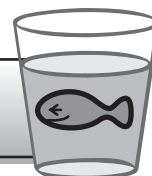


7 調査結果のまとめ



今回の調査結果から得られた河川の状況や水質の傾向をまとめてみます。

降雨の影響で水の濁りが見られた。

今年は、梅雨前線の影響で、吉野川流域の多くの地点で水量が多く、水の濁りが確認された河川が多くありました。

また、通常水量が少ない支川などでは、水量が増えたため水質が改善された地点もありました。

CODで見る水質は昨年とほぼ同じ状態でした。

皆さんの調査結果から分かった吉野川の水質では、昨年と大きく変化した地点は見られませんでした。

ただし、呼びかけ機関が実施した過去の調査結果との比較では水質は全域的に良くなっている傾向がみられました。

下流域の支川が汚れている状況が見られた。

吉野川の下流域の支川(興源寺川、沖洲川、田宮川、新池川、正法寺川など)では、過去の調査結果と同様にCODが8mg/l以上の地点が他河川に比べ多く報告され、引き続き汚れた状態となりました。またこのような河川では、水量が少ない、あまり水が動いていない、生活排水などが流入しているなどの報告があり、植物プランクトンの増殖に起因すると思われる水色異常(茶色、白濁)の報告もありました。

多くのゴミが確認されました。

過去の調査でも毎回、多くの報告がありますが、今回の調査でも多くの河川でゴミが確認されました。確認されたゴミの多くは、ビニール袋、ペットボトル、空き缶など生活から出るものが大半を占めています。



飯尾川